
彼女の過去

マッコリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の過去

【著者名】

NZマーク

【作者名】 マッコフ

【あらすじ】

12歳でありながら、滅竜魔導士そして、S級魔導士である、彼女に秘められた、過去とは？

S級魔導士

777年7月7日午前0時0分

そう、それは私が、4歳の誕生日だつたー。

? ? ? 「グングニルー！どこー？」

そう、あの時は、とても、驚いた

突然、居なくなつたからだ

私は、一人だつた

私の知り合いも探しにいついていたし

そこからの記憶は・ない。

なんでだろう。

不思議だな

なんか、赤の他人に引き取られた気がする

私が、一番覚えていふことは

人の“死”

それしか、覚えていないー。

朝

? ? ? 「おはようー！フェスト！」

? ? ? 「おはよー！あむ…」

あむ「じゃあ、着替えて、ギルドに行こー！」

フェスト「うん！行こー！」

私の名前は、あむ？フェルドナー
ここは、フィオーレ王国

そして、その中の街、マグノリア

私は、その中にある、でっかいギルド、

フェアリー テイルにいるの！

あつ！私は、一応、魔導士！

滅竜魔法を使う、滅竜魔導士！

そして、なんど！

今日も、どうな事が、起きたんだ？

あむ「ナツー！仕事行こうーーー！ってあれ？ナツは？」

あむ「そんない」

フェスト「ノリ悪」

？？？「あむ達は、仕事行つたら？」

「おもかげのかな」

フェスト「その方が、いいと思うよーねー!!」

「行つてらつしゃい——！」

そして、
帰り

フェスト「だねー！」

あむ「あっ！あれ！ナツだよね？」

あむ 行こう！ナツ——！

？？？ - おお!! あむ!! フヌスナ!! 只今!! 「

あむ& - お帰り! ナツ

ナツ・と二行でたんだ：お前

あむ「失礼な！仕事よ、仕事！」

ナツー どんな仕事だあ？

？？？ - あいあい HHD、仕事だよ！ あむの事だからさ」

あむ「ワイバーンの鱗を取ってきて来る仕事」

？？？ - 濃しねー！ 大変いやなし？

「エスト - 大變たよ！」

あむ「ハッピーも、今度来る？仕事に」

ハッピー「えっ！？良いの？」

あむ「うん…サポートとしてねー。」

ハッピー「サポート?」

フュアリーテイル

ハッピー「サポート? 何それ」

あむ「依頼を一人でこなすのは難しいでしょ。だから、2~3人いれば、楽ちんに仕事をこなせる。といつてよー!」

ナツ「俺も、連れて行つてくれー!」

???'依頼?」

あむ「?誰?新しい子?」

ナツ「おおー忘れてた!挨拶しろよ!ルーシィ」

???'失礼なーちゃんとするわよー!」

フェスト「いつたい誰?」

???'初めまして。ルーシイって言います。よろしくお願ひします。」

あむ「ようしきくねールーシイ!..星靈魔導士だね!」

フェスト「だね!」

ルーシイ「なんでわかるのー?」

あむ「当然よ! だって、鍵がついてるじ。」

フェスト「髪色的に、やつよね？」

ルーシィ「す、こわね……何氣に……」

ハッピー「あむの魔法はすごいんだーーきれいだよー相手のやられ方が」

ルーシィ「それ……いこことなの……？」

ナツ「とにかく中に入り込ませー！」

ルーシィ「うん」

あむ「うん」

フェスト「うん」

ハッピー「あーー！」

フェアリー テイル中

ざわざわ

ルーシィ「うわあ。す、こーー！あたし、本当に、フェアリー テイルに
来たんだあ」

ナツ「ただいまーー！」

あむ「ただいまー。//アー。」

ミラ「おかえりーーあむーナツー！ハッピーー！フェスー！」

？？？「ナツが返つてきたつてえ！――！」

? ? ? 「グレイ... アンタ... どんな格好で歩いてんのよ...」

グレイ「おわづ」

? ? ? 「 」 れだから、 咂のない男どもは... 」 へつ いやだわ」

ルーシィ「あわわわわ」

マスター登場！――（前書き）

今回は、マスター登場――――――

マスター登場！！！！

？？？「帰ってきたか、バカたれども」

あむ「マスター！だたいま

ルーシイ「初めまして。ルーシイって言います

マスター「マスターじゃ、宣しくネ」

数時間後

ルーリー「ううでいいのね？」

ルーシイ「はい」

ルーリー「はい！これであなたも、フェアリー・テイルも魔導士よ！」

ルーシイ「わあ！見てーーナツーあたしも、フェアリー・テイルの、紋章入れてもらつた！」

ナツ「良かつたな。ルイージ」

ルーシイ「ルーシイよー」

あむ「落着きなよ、ルーシイ。ナツだつて、わざと言つたんじやないんだから」

ルーシイ「だつてー」

「ナツ。ビニ行くんだ？」

ナツ「仕事だよ。金ねえし」

ハッピー「報酬が、いいやつにしようなー。」

ナツ「あつ！これなんかどうだ？ 海賊退治で、6万ーダ！」

ハッピー「こいねーこれにしよう。」

ナツ「ー。」

ロメオ「父ちゃん…まだ帰つてこないの…？」

マスター「ハコベヨの仕事じゅったな」

ロメオ「せんに遠くないじゃないかー探してくれよー。」

マスター「自分のケシもふけねえやつなんぞ」のギルドは、こいつのじやあ！」

ナブ「おーーーナツーーークエストボーッ壊すなよー。」

つかつか

ナブ「マスター、ナツのやつ、マカオ助けに行くんじゃねえのか？」

ルーシィ「可哀想やつ・・・」

「ああこいつても、本当は心配してゐるのよ」

ルーシィ「そうなんだ…」

ミラ「私たちは…フアリー＝イルの魔導士は…みんな…何かを抱えてる…傷や、痛みや、苦しみを抱えてる」

ルーシィ「傷や痛みや…」

ミラ「私も…」

ルーシィ「え？？」

ミラ「うう。なんでもない」

ルーシィ「…」

馬車

ルーシィ「でねーあたし今度ミラちゃんの嫁」、遊びに行く事になつたの〜！」

ハッピー「下着とか盗んじゃだめだよ」

ルーシィ「盗むかー！」

ナツ&ハッピー「てか、何でルーシィがいるんだ？」

ルーシィ「何よ…こちや悪い？」

あむ「そつやあもつ・・・」

ハツペー「あい」

仕事

ガタツ

ナツ「…止まつた！」

ルーシイ「もう着いたの？」

あむ「早くない？」

フェスト「何かあつたのかな？」

ハッピー「急すきない？止まるのが」

「すみません……」それ以上馬車はすすめませんわ……

ルーシイ「雪！…今は夏でしょー…あり得ないわー！」

あむ「…まだ、夏でも雪が降るとひるむ」

ルーシイ「てか、寒つー。」

ナツ「そんな薄着してつかうだよ

ルーシイ「アンタも似たようなもんじやないー。」

ハッピー「オイラも？」

あむ「私も？」

フェスト「フェストも？」

ルーシィ「その毛布貸して」

ナシ「ねむ」

ハッピー「強引だね」

ルーシィーひひひひひ開け時計座の扉ホロロギウム

あむ「おおーす」二・一

フエスト「楽だね！星靈も」

ホロロギウム「あたしはここにいる……と申しております」

ナツ「何しに来たんだよ」

ホロロギウム「何しに来たと言えど、ここに何しにきたのよー……と申しております」

ナツ「知らねえでついて来たのか？」

ハッピー・ペイメントだね

ナツ「バルカンを倒すんだ」

ルーシイ「！！！！！」

あむ「ナツー何かこつちくるよー!」

フェスト「バルカンだ!」

ナツ「さつそく、来たな!」

ハッピー「頑張れー!ナツ!」

ナツ「オラああああ!」

バルカン「うつほほほほー!」

ナツ「あれー?」

ルーシイ「!」

バルカン「女?」

あむ「ルーシイ!!」

フェスト「あの、サル」

ハッピー「良ぐ、ルーシイを、選んだね」

ナツ「あんなルーシイをな」

ルーシイ「ひびつ」

バルカン「うほほほほほほほー!」

ナツ「しゃべれんのか」

ホロロギウム「でか……助けなせこやーーー……と、母じいおつまむ」

あむ「ナツ！助けに行こうーーーーー！」

ロメオ（前書き）

ついに、バルカンとの決着がつく！
果たして、どっちが、勝つか！？

ロメオ

ナツ「とにかく、ルーシイのところへ行くぞ!」

ハッピー「あい!」

その頃ルーシイ

ホロロギウム「…………ど、申されましても……」

ルーシイ「あのサル、すんごい気分いいみたいじゃない……」

バルカン「女?」

.....

ポン!

ルーシイ「ホロロギウム消えないでよー!」

ホロロギウム「時間です。『さがせよ』」

ルーシイ「延長よー延長!」

ナツ「ルーシイ!」

あむ「大丈夫?」

ルーシイ「ナツ!あむ!ハッピー!フュスト!」

ナツ「おいー・マカオをビニに、隠したー！」

ルーシィ「わー。隠したつてもう決めてる
るー」

あむ「マカオーー..ビニー？」

バルカン「うほほほ」

ルーシィ「通じたー！」

ナツ「あつー！」

あむ「おおーー！」

バシッ

ナツ「おおーー！」

あむ「わあー！」

フェスト「あむー！」

ハッピー「ナツー！」

ルーシィ「ちょっとー..やだ.....死んでないわよね.....あいつ等結構
身体頑丈だもんね」

バルカン「うほほほー..男いらなーい..オデ、女好き」

ルーシィ「女！女！つて、つむさいわね……」の、ヒロザル

バルカン「うほほほほ

ルーシィ「開け！金牛の扉！タウロス！」

バルカン「牛！」

ルーシィ「タウロスは、あたしの星靈の中で、一番体力が一番ある星靈よ！」

タウロス「ルーシィさん、いつ見ても、良い乳してますなあ～！」

ルーシィ「そうだ……」いつも口かつた……

バルカン「オデの女をとるな！」

タウロス「俺の女？それは、聞き捨てなりませんな」

ルーシィ「そうよータウロス…やつちやつて…」

タウロス「俺の女ではなくて、俺の乳と言つてもらいたい

ルーシィ「もらいたくないわよー！」

ルーシィ（ホロロギウムで、時間もいっぱい使つちゃつたし大丈夫よね！）

ナツ「痛てえな……」

あむ「落とすんじゃないわよ

ナツ「つて、何か一匹増えてんじゃねえか！」

あむ「オラア！」

ルーシイ「ちょっとー！アンタ等が、倒れたから、あたしが、戦つてたのよ！」

ナツ「決闘だ！」

あむ「うん！」

ナツ「火竜の咆哮！」

あむ「風竜の咆哮！」

ルーシイ「これなら、いけるかも！」

バルカン「うほほほー！そんな攻撃は当たらないーー！」

ルーシイ「うそー？当たらないなんて……」

バキッ

バルカンが、氷柱を外しナツのほうに投げた

ナツ「あはははー！そんな、物は、火にはきかーん！」

あむ「風で返してあげる！」

バルカンは、タウロスの、オノを持った

バルカン「うほ」

ナツ「それは、痛そうだ」

あむ「それは、返せないね」

ルーシィ「タウロスのオノ！タウロス！戻りなさいー。アンタが戻れば、あの、オノは消えるのよ！」

バルカン「うほほほーー！」

ナツ「当たんねえよ！」

バルカン「うつほほほーー！」

ナツ「ルーシィ！平氣か！」

ルーシィ「うん」

ナツ「いいが、ルーシィ。ギルドの皆は、仲間だ」

ルーシィ「来たわよ！」

ナツ「ウゼン奴だが、グレイやエルマンも、仲間だ」

ルーシィ「わかつたわよー！」

ナツ「ミリも、じっちゃんも、仲間だ」

ルーシィ「わかつたわよ！わかつたから！」

ナツ「ハッピーも、ルーシィも、あむも、フェストも、マカオも、みんな仲間だ」

ルーシィ「ナツ！来てるわよ！」

ナツ「だから、俺は、マカオを連れて帰るんだ！」

がしつ

ジユウウウ

どろつ

ルーシィ「自分の熱で、剣を溶かしたっていうの！？しかも、食べてるし！」

あむ「さすが！」

ぶつ！

バルカン「うほほほー」

ナツ「火竜の咆哮！」

バルカン「うほほほー」

みみみみみ

あむ「何！？」

ナツ「また、何かおきんのか！？」

かつ

ハッピー「マカオだー！」

あむ「本当だ！」

フェスト「ひどこ怪我……」

ルーシィ「早くて手当をしないとー！」

手当中

ルーシィ「どうじよひ……持つてきた応急箱だけじゃ、足りない……」

あむ「バルカンに接收されたもんね……」

ハッピー「特に腹等辺が……」

ナツが、手に火を出した

ジユウウウ

マカオ「ぐああああああ！」

ルーシイ「ちよ……」

あむ「これで、良いんだよ」

フェスト「フェスト達だってこんな姿見たくないけど…これしかな
いんだ…」

ハッピー「それに、よく考えてみて」

ルーシイ「！（確かに…火傷をさせて、出血は止まるわ…）」

マカオ「くそつ…惜しかったんだ…」

ナツ「うるせえ！ルーシイ！抑えてろ！」

マカオ「19匹までは、倒したんだ…」

ルーシイ「うそ…？あのサル1匹だけじゃなかつたの…？」

ナツ「しゃべんなー傷かふせらげねえんだよー」

ルーシイ（かなわないな…）

マカオ「20匹目に接収されて…くそつこんな姿で、あいつにどん
な顔みせたら、いいか…」

ナツ「じゃべんなつて言つてんだよー殴るぞー」

ロメオ「…」

マカオ「よお！ただいま」

ロメオ「父ちゃん…オレ…」

マカオ「心配かけたな…今度、ガキにからかわれたら、じついつて
やれーお前の父ちゃんは、怪物19匹倒せんのかって」

ロメオ「うん！ありがとうー！ナツ兄ー！ハッピーーあむ姉ー！フ
エストー！」

ナツ「おうー！」

ハッピー「あいー！」

あむ「またねー！」

フエスト「いひちひそ」

ロメオ「それと、ルーシィ姉も、ありがとうー！」

今田の天気晴れのち曇りのち雪のち晴れ

ルーシィ「あたしは、まだ、フエアリーテイルに入つたばかりだけ
ど、このギルドは、むちゃくちゃだけど、このギルドは楽しいです」

ロメオ（後書き）

次回予告

ルーシイの部屋がついに決まった！！

ルーシイの部屋！－！－！

フィオーレ王国

東方

マダラの街

古文書

街の中心にそびえたつ教会

カルディア大聖堂を抜け
る

ドフェアリー・テイルが見えてきます。

「ちょっと、高いナビ、それとも書いたとおり、商店街の近くで、便利そうなの……！」

ルーシイ「いいトコ見つかったなあ」

ルーシィ一七万にしては間取りも広いし、収納ペースも、多いし、真っ白な壁、木の香り、ちょっと、レトロな暖炉に、竈までついてるーそして、何より素敵なのは……」

ナツ「よつ！」

あむ「いいとこだねー！」

ル・シイーあたしの部屋――――――――――――――

ルーシー何であんた達がいるのよー！！！」

ナツ&ハツピー「まわつ」

あむ「危なつ！！」

フェスト「危険だね」

ナツ「だって、ミラから、家決まつたって聞いたから」

ルーシイ「聞いたから何！？勝手に入ってきていい訳！？親しき仲にも、礼儀ありつて言葉知らないの！？あんた達のしたことは不法侵入！？！犯罪よ！？！モラルの欠如も、いいトコ「だわ！？」

ナツ「オイ…そりゃあキズつくぞ…」

あむ「ひどいね…」

フェスト「いいじゃない！？！」

ルーシイ「キズついてんのは、あたしの方よー！？」

ナツ「仕方ない…帰るか…」

ハッピー「あい…」

あむ「バイバイー！」

フェスト「明日ねー…」

ルーシィ「窓から出て行つて…」

翌日

あむ「大丈夫？ルーシィ」

フェスト「顔色悪いよ」

ルーシィ「アンタ等が帰つた後、まだ、アンタ等がいるか、確認してて、眠れなかつたの！！」

ナツ「ドンマイだな、ルーシィ」

ハッピー「可哀そう…」（笑）

ルーシィ「アンタ等のせいよ…」

あむ「失礼な…あの後、ちゃんと帰つたわよ…」

「おやんヒフュスト達自分のベッドで寝たもん…。」

ナツ「お前が、心配しなければ眠れたんだろう？」

ハッピー「心配せらず」寝よつよ

口キ一君、本当にかわいいよね、メガネが潰れちゃうだよ」

ルーシィ「潰ちやえば？」

星靈魔導士！？」「…………」

川口シティ - そこだけと

ハッピー・ガーデン・シティ

僕たちの運命はここでおじました! ような気がする。」

ルーシー、何か始まつてたのかしら……

グレイ「それにしても、スゲエよな、バルカンを倒したとか」

ルーシィ「それ、ナツだし」

あむ「私も活躍したよーーー！」

ルーシィ「アンタは違うでしょーー！」

「フエスト」でも、ルーシィよつは、活躍したよ！」

ルーシィ「それは、言っちゃダメーー！」

エルザ（前書き）

エルザが返ってきた！？
何か、デカいものが！

エルザ

あむ「落ち着きなよ」

フュスト「冷静に、冷静に」

ナツ「仕事行くぞ~」

ハッピー「ロキが戻ってきた!!」

ロキ「ナツ、グレイ、まずいぞっ!!~」エルザが返ってきた!!

ナツ「嘘!？」

グレイ「マジか!!」

ルーシィ「エルザって?」

あむ「最強の魔導士だよ」

ザツザツザツ

ロキ「オレ、帰るわ…」

エルザ「ただいま帰った、マスターはおられるか?」

リリ「おかえりなさい!!~マスターは定例会よ!!~」

エルザ「そうか」

「エルザさん… その馬鹿でかいのなんですかい？」

エルザ「ん？ ああ、これが、倒したものの尻尾を街の住民が飾りにしてくれてな、あまりにも、きれいだからここの土産にしようと思つて… 迷惑だったか？」

「いえいえ！ とんでもないです…！」

エルザ「それにしても、貴様ら、また問題ばかり起こしていらっしゃる。マスターが許しても、私は許さんぞ」

エルザ「ワカバ、吸い殻が落ちていて… ビジター、踊りなら外でやれ、カナ… なんという恰好で、飲んでいるんだ… ナブ… まだ貴様は、リクエストボードのまえでうるうろしているな… 仕方ない… 今日までにしてやるわ」

ルーシィ（何か色々といつたよつた…）

エルザ「ところで、ハッピー、あむ、フェスト、ナツとグレイはいるか？」

あむ＆フェスト＆ハッピー「こま～す…！」

グレイ「よ… よお… 僕たちは… 今日も、仲良しだよな…」

ナツ「あ…」

ルーシィ「ナツがハッピーみたいになつた…！」

ミラ「一人供、昔エルザにやられて、ナツはボゴボゴに、グレイは全裸で歩き回つていて怒られて、ロキは、ロドンとして、半殺し」

ルーシィ「えーっ！！」

エルザ「ん？君は？」

ルーシィ「あつ！初めまして。ルーシィと申します。よろしくお願ひします」

あむ「ちなみに、星靈魔導士だよ！」

エルザ「なるほど…君が噂の新人だな、君の事はよく聞いている、洋平ゴリラを倒したとかなんとか」

ルーシィ「それナツだし…」

エルザ「とにかくよろしくな」

キャラクター紹介！！！（前書き）

急ですけど、キャラクター紹介します！――

キャラクター紹介！！！

名前	あむ・フェルドナー
性別	女
年齢	不明
魔法	風の滅竜魔導士
特徴	濃い青色の髪をしていて、瞳は黒色である。髪はストレート。 エルザよりも長い。そして、 <small>ドラゴンスレイヤー</small> 滅竜魔導士でありながら、S級魔導士である。
過去に何があったのかは知らないが、人の“死”を怖がっている。	
そして、何故だか、首に首輪をしている。	
フェストも知らないらしい。	
名前	フェスト
性別	女
年齢	5歳
特徴	白毛の色であり、左耳には、ピンクのリボンをしている。猫である

設定 ハッピーと同じく、6年前に送られたが、生まれる時期が遅くなっていて、5歳になったのである。

シャルルと同じように、Hドラスのことを少し知ってる様子。

キャラクター紹介！！！（後書き）

以上！！

遊園地

数日後

ララバイ事件が終わり、エルザの逮捕（儀式？）、デリオラの戦い、ファンтомの戦い、樂園の塔、ファンタジアそして、ニルヴァーナの戦い、ウェンディたちが入った事が終わった後

あむ「ねえ！皆！見て！」

フェスト「見て～見て～」

ルーシィ「何それ？」

ウェンディ「紙？」

シャルル「また何かやるの？」

グレイ「チケット？」

あむ「遊園地のチケットだよー。」

フェスト「あの、有名なサー・ティ村の遊園地ーー！」

ウェンディ「わあーー！」

シャルル「今から行くの？」

ルーシイ「えつ……あの遊園地……？」

グレイ「何であるんだ？」

あむ「ロキから貰った」

フェスト「ちなみに、ナツと、ヘルザには渡したって……」

ルーシイ「行こう……！」

グレイ「何持つて行くか」

エルザ「早く支度をしろー置いて行かれたいのか？」

あむ「私は準備できた！！」

フェスト「フェストも～！」

ルーシイ「準備早つ……しかも、多つ……」

ウーンディ「楽しみですね……！」

シャルル「そうかしぃ？」

あむ「出発進行ーーーGOーーー！」

フェスト「レッゴー^{レッコ}、さ GOーー！」

その時、あむの過去がこれから始まるなんて、あたしは、まだ知らなかつたー。

遊園地（後書き）

次回

あむの過去が今動き出すー。
あむの過去は何なのか、そして、彼女に秘められた“秘密”とはー？

遊園地での被害

ここは、
サテイ村。

多くのアトラクションがあるため、今となつては人気スポットになつている

あむ「海だあ！！」

フュストー泳ぐぞー！！

ウムンタヤ - ニンニンニン

シャ川川 - 暴れるのね...」

ハセビ
あいだ

卷之三

コハサ たぐひく湯くそ

ケレヤ・おもい!!

ルーシーさん！」

夕方

あむ「ねえ！ここ温泉があるから、温泉に行かない？」

ウェンディ「そんなのあるのー?」

シャルル「それほど感心するものじゃないわよ」

ルーシィー 良いね！！

あむ「エルザも行くよね？」

エルザ「ああ！！」

あむ「行」つーー。」

寝る時間

ルーシイ「お休み！！」

ナツ「がーがー」

ルーシイ「！！」

あむ「...」

ルーシィ（あむ…どうしたんだろう…？）

あむ「…………はあ

「ううへ、—田は終わつた—

？？？」一つを連れて帰ればいいんだな？」

？？？「わうよ。」の子元間違いないわ

？？？「早く連れて帰ろ！」

？？？「確かにな……起きてしまったら困る……」

次の日

フェスト「あむが居ない……」

グレイ「えつ！？」

エルザ「なんだと！？」

ルーシィ「……！」

ナツ「えつ……」

ハッピー「う……そ」

ウーンディイ「えつ……」

シャルル「まさか……」

遊園地での被害（後書き）

あむはどこに行つたのか？

そして、みんなはあむを探し出せるのかー？

あむの仲間たち

ハッピー「みんなで探そうー！」

フュスト「うん……そうだね……」

エルザ「行くぞ！！」

グレイ「おひ...」

ハッピー・あいさー！！

エルサー ル・シイ、ケレイ、私たちも違うぞ」

卷之二

シャルル&ルーシー

エルザ「……シャルル？ルーシイ？」

ルーシイ&シャルル「……」

ダツ！！！

ルーシイが走った

エルザ「ルーシイ！！」

グレイ「ビ」行くんだよ……。」

フェスト「ルーシイ……待つて……。」

ウーンディ「シャルル……。」

その頃あむは—

あむ「?」には?何処?」

?「?」「気が付いた?」

あむ「?」誰!?」「

?「?」「久しぶりね。あむ」

あむ「!?!?あなたは!」

?「?」「私たちはね~、命を救つたんだよ~!!私たちは、本当は医者を呼びに行つたのに、戻つてきたら、誰かさんが居ないんだもん。驚いたわ~」

あむ「そんな…私は…逃げたわけじゃ…」

?「?」「俺たちは逃げたとしか見てない」

あむ「!?!レン!~」

レン「久しいな、再会は

あむ「……」

レン「毎日一緒にいたのだがな……あんな」とが起きるまではな……

? ? ? 「やうだよね～。あ・ん・な・こ・と・さ・え・起きなければね

あむ「それは……」

? ? ? 「セレまでいつのせやめておナ……」

エリ「そつかなあ? だつて、裏切られたんだよね～? ノウ」

レン「確かに。裏切られたんだからな」

あむ「私は裏切つてない!! あの時は……」

ノウ「あの時は?」

? ? ? 「あの時は何なんだ?」

あむ「……シユウ」

シユウ「何なんだ? 裏切つたくせに」

裏切り者（前書き）

あむが裏切った！？

どういう事！？

裏切り者

あむ「私は裏切つてないわー！」

ユウ「見事に裏切った」

あむ一何処かよ!!

エリ一たまで
あなた逃げたしやなし！！

シニヤ・あい・か紹介されたと想ひて「

おもて道のれ。

卷之三

あむ——それは……エリ達たゞて逃げたじやない!!!!

エリ、私たちは逃げてなんかなし！！

ユウ「俺たちは、人を呼びに行つたんだ！！」

あむ「そんな…それで、助かつたの?」

? ? ? — 助がつたぞ…

あむ

エリ「ナイン！！」

ナイン「僕たちが人を呼びに行つたから……あいつは助かつたんだ」

あむ「……うそ……あの人は……あの人は……もうダメだつたはずよ……」

ユウ「お前は裏切り者として、こここの奴隸にするんだ」

あむ「奴隸！？」

エリ「そうよ。生け贋よつはましでしょ？」

あむ「まじじゃないわ……」

シユウ「裏切つた貴様が悪い」

あむ「そんな……」

裏切り者（後書き）

あむが奴隸になつてしまつ。

ナツ達はそれを阻止できるのか！？

探す

ナツ達

ナツ「あむー……じこだーー！」

エルザ「貴様の鼻で確かめろーー！」

ナツ「それだーーー！」

フェスト「氣付こうよ…」

ウーンティ「あの……監さん……ルーシイさんと、シャルル探しませんか？」

グレイ「そうだな。とにかく、離れたままじゃ、場所はわからんないもんな」

エルザ「ナツーー頼む」

ナツ「こつちだーー！」

ウーンティ「シャルルもですーー！」

グレイ「よしーーー！」

エルザ「行くぞーーーあむはその後だーーー！」

フェスト「うんーーー！」

ハッピー「あいさー！」

ウェンディ「はいー！」

「一体何が！？」

その頃シャルルとルーシィは一

ルーシィ「あむは…悲しい顔をしてたんだ…なぜか知らないけど…」

シャルル「今の一瞬見たのは何…？あむが…ウェンディガ…」

ルーシィ「あむの居場所は分からぬけど…何か引っかかるところ
があるのよね…」

その頃ナツたちは一

ナツ「ルーシィ！…！シャルル！…！」

エルザ「ルーシィ…！…シャルル…！…ビ…」だ…！」

グレイ「ルーシィ…！…シャルル…」

ウーンディ「シャルル…！」

フェスト「ルーシィ…！」

エルザ「見つかつたか！？」

ウーンディ「いいえ…見つかってません

ナツ「ビ…」にいやがんだ…」

グレイ「何があつたのか？」

フェスト「シャルルはあると思つ……未来が見えるつて言つてたから
……でも、ルーシィは……」

エルザ「やはり何かあるのだな……」

ウハンディ「どうしたんだつ……？」

関係（前書き）

やつとい、ルーシィ＆シャルルと一緒に行動できることになります！

ルーシイ「あむのあの顔…何かあるはず…はつ…！まさか、あむの…あむの…」

シャルル「何なの…あれは…あむが…何か…関係があるの…？」

ナツ「ルーシイ…！」

ウェンディ「シャルル…！…見つけた…！」

ルーシイ「ナツ…！…ウェンディ」

シャルル「ウェンディ」

エルザ「シャルル…！…ルーシイ…！」

ルーシイ「エルザ…！」

グレイイ「見つかったか…！」

ルーシイ「グレイイ…！」

ナツ「急にどうかいくなよ…！…心配したじやねえか…！」

ルーシイ「…めん…」

ウェンディ「とにかく無事でよかったです…！」

フュスト「そうだね……」

グレイ「後は、あむを探すだけだな！！」

ルーシィ「あのさ、昨日あたし、あむが悲しい顔をしているのを見たの……でも、涙が出ていなかつたの……それってさ、そんなに悲しくなかつたのか、もしかしたら、あむの過去に何か関係があるんじやないかな……だから、今回のはあむの過去に関係があると思う」

フュスト「そうかも……」

ナツ「よしーー！あむを探すぞーーー！」

エルザ「ああ……」

グレイ「おうーーー！」

ルーシィ「うんーーー！」

ハッピー「あこせーーーー！」

フュスト「GOーーーー！」

ウハンティイ「はーーーー！」

シャルル「ふんーーー！」

本当の目的

その頃あむは

エリ「すぐには奴隸にはならないわ。仲間が助けに来てくれるかしら？」

あむ「……れる……助けに来る……絶対に……！」

レン「何処にそんな自信があるんだ？」

あむ「仲間だから……信じてるから……信じてれば、助けに来る！」

「！」

ユウ「へえ～。大した自信じゃないか

シユウ「相変わらずだな

？？？「俺たちの目的はお前の奴隸なんかじゃない

あむ「あむ……」

シユウ「サーーズ」

サーーズ「本当の目的があるんだ

あむ「本当の……目的……？」

サービス「ああ

あむ「何よーーー！」

ユウ「後になれば分かる」

あむ「後ーーー？」

レン「この先は言えないな

エリ「しばらく待つてからよ

あむ「どうして？」

サービス「仲間の田の前で田畠が…」

あむ「ツ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7951v/>

彼女の過去

2011年11月11日04時05分発行